

協会だより



一般社団法人 関東地域づくり協会

3

関東地域づくり協会からのお知らせ

令和元年度 関東地方整備局 優良業務表彰を受賞しました
 令和元年度 東北地方整備局 国土交通行政関係功労者表彰を受賞しました
 関東地方防災エキスパート情報交換会が開催されました
 令和2年度 関東ブロック 災害復旧事業技術講習会 Webにより開催

5

社会資本に関する話題

絶海の孤島“沖ノ鳥島” 観測拠点施設更新・災害復旧完了!!

6

関東の宿場町③

府中宿 東京都

8

関東の土木遺産⑩

千貫樋 埼玉県

10

会員のひろば

私の週末

11

会員情報

新会員紹介・お悔やみ
 編集委員会だより

12

公益事業紹介

荒川図画コンクール

今回号の掲載記事について

新型コロナウイルス感染拡大防止の配慮から、シリーズ企画「プロジェクトK」「関東の道の駅」は掲載を休止しました。

**協会だよりへの
投稿のお願い**

協会だより編集委員会では、会員の皆さまからの原稿を募集しています。ふるってご投稿ください。

会員のひろば：趣味や特技、現役時代の思い出、紀行文など800～1200字程度で写真数枚を添えてご投稿ください。

会員の近況コーナー：近況報告、エピソード、はまっている物、おすすめの本の紹介など何でも結構です。思いつくまの短文（1行でも）を書き連ねていただき、お気軽にご投稿ください。

表紙写真：四季を感じられる写真等ご投稿ください。

提出先➡協会だより編集委員会宛 ●E-mail：kyokai-dayori@kt-chkd.or.jp ●FAX：048-600-4175

**表紙の言葉**

なかしま みひろ

中嶋深容さん（松戸市立第五中学校1年生〈受賞時〉）

光の交差点

「この写真は、家族で長崎旅行に行ったときに撮りました。歩道橋からふと見てみると路面電車と車が交差し、雨上がりの路面に映った街の光が車や電車の光と交わる幻想的な光景が広がっていて、思わずシャッターを切りました。はりめぐらされた路面電車の電線もまた不思議な情景でとても思い出に残る一枚になりました」

撮影時間が絶妙で、濡れた路面に反射するヘッドライトの温かみのある色合いと暮れ行く空との対比も美しく記録され、路面電車の軌道が造形的にまとまっています。「光の交差点」のタイトル通りの作品になっています。

令和元年度 関東地方整備局 優良業務表彰を受賞しました

関東地方整備局の優良業務および優秀技術者表彰は、その成果と業務への取り組み方が優秀で他の模範となるものを表彰し、技術力の向上や円滑な事業の推進に資することを目的としています。

当協会では、令和元年度の業務として常総国道事務所の発注により民間2社との設計共同体で施行した「東関東水戸線道路事業監理業務30C3」が表彰を受けました。

本業務は、東関東自動車道水戸線（潮来～銚田）全線において、事業促進PPPとして事業計画の検討・進捗状

況管理、工事発注までに必要となる業務の効率的なマネジメントおよび関係機関との協議・調整を行ったものです。

■局長表彰

受賞業務：東関東水戸線道路事業監理業務30C3

発注者：常総国道事務所

受注者：東関東水戸線道路事業監理業務30C3

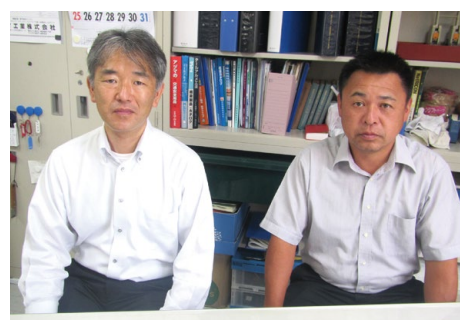
長大・関東地域づくり協会・

クリエート設計共同体



事業監理業務対象の現場（北浦IC付近）

写真提供：常総国道事務所



受賞した設計共同体の奥山技術主任（左）と
山口技術主任（右）

令和元年度 東北地方整備局 国土交通行政関係功労者表彰を受賞しました

東北地方整備局は、建設事業関係功労者、東日本大震災および令和元年東日本台風に伴う復旧・復興関連業務を含む優良業務施行者、同大震災復旧・復興工事および同台風に伴う復旧工事等を含む優良工事施工者、工事成績優秀地域企業および災害対策功労者を、国土交通行政関係功労者として表彰しています。

当協会では、令和元年度業務として三陸国道事務所の発注により民間3社との設計共同体で施行した「三陸沿岸道路事業監理業務（洋野工区）」が表彰を受けました。

本業務は、三陸沿岸道路（洋野工



事業監理業務対象の現場

区）において、事業促進PPPとして事業計画の検討・進捗状況管理、工事発注までに必要となる業務の効率的なマネジメントおよび関係機関との協議・調整を行ったもので、当協会としては平成27年度、30年度に続き3度目の受賞となりました。



週例会の様子

■東北地方整備局国土交通行政関係功労者表彰

受賞業務：三陸沿岸道路事業監理業務（洋野工区）

発注者：三陸国道事務所

受注者：工営・関東・大成・福山設計共同体

関東地方防災エキスパート情報交換会が開催されました

関東地方防災エキスパートは、関東地方において地震および風水害等の大規模災害発生時または発生の恐れがある場合に、専門的知識と経験を生かして公共土木施設等の被災状況の迅速な収集と通報および災害対応等に関する支援活動をボランティアとして行っています。

防災エキスパート活動を効果的に行うため、毎年7～8月頃に関東地方整備局の各事務所主催による情報交換会が実施されています。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け開催が危ぶまれましたが、「三密」とならない環境づくりや参加者数の制限、リモート会議での開催等、感染拡大防止への配慮のもと開催され、9支部の合計で221名の防災エキスパートが参加しました。



人数を制限して開催された利根川上流河川事務所の情報交換会

支部名	主催事務所	開催日	感染拡大防止への配慮等
水戸支部	常陸河川国道	7月29日(水)	
	下館河川	8月 5日(水)	
	霞ヶ浦導水	7月30日(木)	
	常総国道	7月31日(金)	
	常陸海浜公園	7月28日(火)	
宇都宮支部	宇都宮国道	7月27日(月)	
	日光砂防	7月20日(月)	
	渡良瀬川	7月30日(木)	
	鬼怒川ダム統合	7月27日(月)	
高崎支部	高崎河川国道	7月31日(金)	
	利根川水系砂防	7月17日(金)	
	利根川ダム/品木ダム	8月 7日(金)	
大宮支部	利根川上流	7月29日(水)	参加者数を制限
	荒川上流	7月29日(水)	参加者数を制限
	大宮国道	7月31日(金)	参加者数を制限
	北首都国道	8月 4日(火)	
	荒川下流	8月 6日(木)	
千葉支部	霞ヶ浦河川	7月30日(木)	
	利根川下流	7月29日(水)	
	江戸川河川	7月27日(月)	
	首都国道	7月28日(火)	
	千葉国道	7月31日(金)	
東京支部	関東技術	7月14日(火)	
	東京国道	8月 4日(火)	リモート会議にて実施
	相武国道	7月28日(火)	
神奈川支部	昭和記念公園	7月31日(金)	
	京浜河川	7月27日(月)	
	相模川水系ダム	7月16日(木)	
	川崎国道	7月31日(金)	
甲府支部	横浜国道	7月21日(火)	
	甲府河川国道	7月30日(木)	リモート会議にて実施
	富士川砂防	7月31日(金)	
長野支部	長野国道	7月29日(水)	伝達説明を受け資料送付

令和2年度 関東ブロック 災害復旧事業技術講習会 Webにより開催

関東地方で災害復旧業務に携わる関係者を対象として、平成17年度から災害復旧事業技術講習会を実施しています。

今年度は、当協会および公益財団法人千葉県建設技術センターの主催により、8月26日(水)に東京都北区の赤羽会館講堂で開催する予定でしたが、新型コロナウイ

ルスの感染拡大防止のため会場での開催を中止し、代わりにWebによるオンデマンド講習会としました。

オンデマンド講習会は、講習会への申込みをされた方を対象として、10月下旬以降に、当協会ホームページからアクセスして受講できるようにする予定です。

■講義内容

「災害復旧事業制度について」

丸山準氏(国土交通省水管理・国土保全局防災課総括災害査定官)

「災害復旧事業の基本原則」

犬丸潤氏(国土交通省水管理・国土保全局防災課災害査定官)

「災害復旧事業における留意事項」

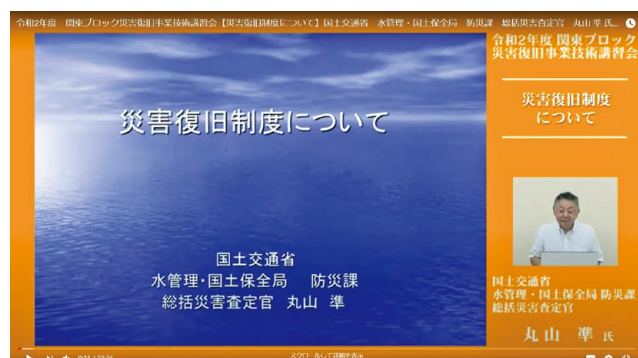
戸倉健司氏((公社)全国防災協会災害復旧技術専門家)

「令和元年度における千葉県の被害状況と県の取り組み」

山本知範氏(千葉県県土整備部河川環境課防災対策室主査)

「関東地方整備局の災害対応について」

遠藤武志氏(国土交通省関東地方整備局災害対策マネジメント室長)



絶海の孤島 “沖ノ鳥島” 観測拠点施設更新・災害復旧完了!!

関東地方整備局京浜河川事務所では、日本の最南端に位置する排他的経済水域の起点となる国土保全上極めて重要である沖ノ鳥島の保全事業を進めています。

この度、日本唯一の熱帯気候である沖ノ鳥島の保全に万全を期すため、老朽化した観測拠点施設の更新と、緊急時のヘリポートや島の保全対策等の調査を行っている観測所基盤の船着き場の災害復旧を実施し、現地作業が無事完了しました。約3カ月に及ぶテレビ・ラジオも視聴できない船上生活、過酷な環境下での重労働を終え無事に帰港しました。

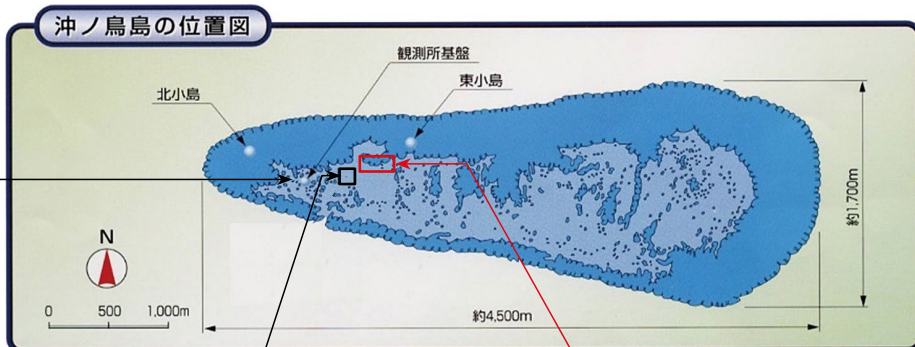
今回の施設更新により、沖ノ鳥



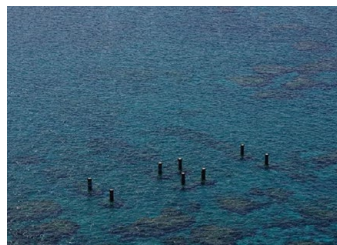
島の気象海象データを継続・安定して観測することが可能となりました。また、観測所基盤船着き場の復旧により、観測所基盤上にあるヘリポートと実験施設が安全に活用できるようになりました。



船着き場の復旧工事が完了した
観測所基盤



旧観測拠点施設(撤去前)



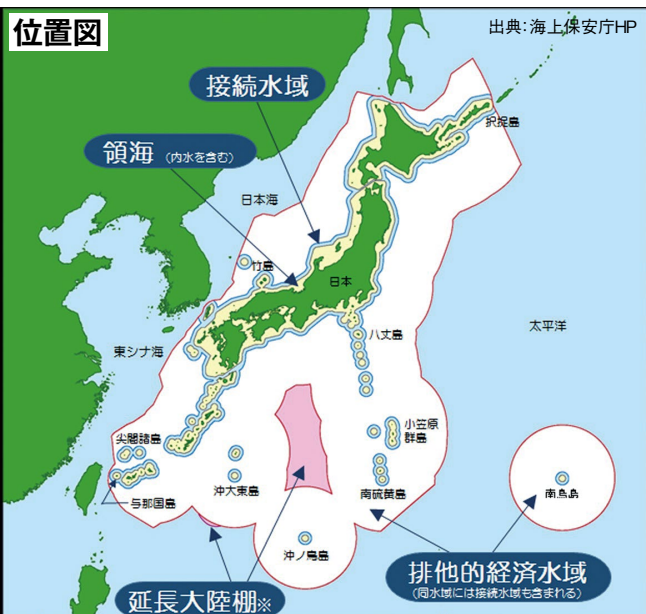
旧観測拠点施設撤去跡



撤去した旧観測拠点施設を台船に
載せ内地まで回航



新観測拠点施設



※排他的経済水域及び大陸棚に関する法律第2条第2号が規定する海域

■ 沖ノ鳥島の概要

沖ノ鳥島は、北緯20度25分、東経136度04分に位置し、東京から約1,700km、小笠原諸島父島からでも約900km離れた我が国最南端の島です。

この島は、東西に約4.5km、南北に約1.7km、周囲11kmの卓礁で、我が国の国土面積(約38万km²)を上回る約40万km²の排他的経済水域を有する国土保全上極めて重要な島ですが、満潮時には北小島、東小島の2つの島が海面上に残るのみとなりました。

昭和62年度から2つの小島が侵食により、水没する恐れがあったため、護岸の設置等の保全工事を実施しました。

平成11年には国土保全上極めて重要である沖ノ鳥島の保全に万全を期するため、国土交通省(当時建設省)が直接海岸の維持管理を行うことになりました。

平成22年には「排他的経済水域及び大陸棚の保全及び利用の促進のための低潮線の保全及び拠点施設の整備等に関する法律」が施行され、平成23年には同法に基づき、「低潮線保全区域」が設定され、沖ノ鳥島の管理がますます重要となりました。

記事・写真提供:国土交通省京浜河川事務所



歴史豊かな 江戸西郊の中心地 府中宿

江戸時代、東海道などの街道に
設けられたのが宿場です。

旅人を迎え送り出した宿場の古今の様子を、
関東地方の各地に訪ねるシリーズ。

第3回は甲州街道9番目の宿場町
府中宿です。



「江戸名所図会」に描かれた大國魂神社。
府中宿の中心として周辺地域の信仰を集めた
(画像提供: 国立国会図書館デジタルコレクション)



府中の街なかでは
江戸の面影に出会うことができる。
旧街道沿いの
勇壮な冠木門もその一つ

国府から発展した府中宿

府中宿は少なくとも慶長年間(1596～)のうちには初期の宿場の形を成していたと考えられています。本町・番場町・新宿の3村からなる、甲州街道では大きな宿場でした。「宿村大概帳」(1843/天保14年頃)によると東西11町6間に人口2762人、本陣1軒、脇本陣2軒、商家が142軒あり、そのうちの29軒が旅籠屋。問屋場は各村に配してありました。

府中は律令時代から武蔵国の中心地。7世紀頃に地方行政府である国府が置かれました。その後国府の周辺に大國魂神社の前身、武蔵野総社(六所宮)が築かれ、時代を通じて周辺地域の信仰を集めました。5月5日の例大祭、通称「くらやみ祭」には、府中近郊はもとより江戸からもたくさんの人が訪れ、宿場は大いに賑わったといわれています。祭礼では「競馬式」という国府の時代から続く行事が現在も行われています。

多摩川水系からの豊富な水と緑に恵まれた府中は古くから良馬の産地であり、戦国時代から江戸初期にかけては関東有数の軍馬の供給地でした。大きな馬市が開かれ、家康ゆかりの格の高い馬市として幕府の役人も訪れていました。現在の観光スポットである東京競馬場も、この豊かな自然を生かそうと目黒から移ってきました。

宿場のさまざまな側面

甲州街道は幕府直轄領の甲府と江戸を結ぶ軍用道の意味合いが大きく、参勤交代の他に甲斐国に赴く勤番の武士や八王子千人同心らが往来しました。江戸の中頃には庶民が商用や行楽、寺社詣に使うようになります。府中市内には一里塚の跡が2つあり、そのうちのひとつである本宿一里塚跡を日本電気株式会社府中事業場内で見ることができます。江戸から8里にあたるこの一里塚跡は、現在の甲州街道から南の道沿いにあり、時代とともに道筋が変化したことがうかがえます。府中宿の中心、現在の宮西町5丁目の交差点には幕府の政策方針や通達を記した札を掲げた高札場の跡が残っています。向かいには籠や人馬の継換えを行った問屋場跡があり、問屋場に隣接していた万延期の蔵が現在はカフェになっています。府中宿から旧街道沿いを西に進むと江戸期に建てられた冠木門があり、本宿交番の傍らには常夜灯が現存。当時を偲ばせてくれます。

称名寺には全国的にも珍しい“飯盛女の墓”が残っています。飯盛旅籠には「飯盛女」という名目で幕府が許可した遊女が働いていました(府中市郷土の森博物館『甲州街道 府中宿 府中宿再訪展図録 改訂』などに記載あり)。重労働の末に早死することが多かった彼女たち。死後は打ち捨てられるのが通例でしたがここでは旅籠屋杉嶋屋の飯盛女が弔われています。人々の行きかう賑やかな宿場の、もう一つの側面を感じることができます。



大國魂神社の参道。旧甲州街道を挟み、家康も奉植したといわれる馬場大門の櫟並木に続いている



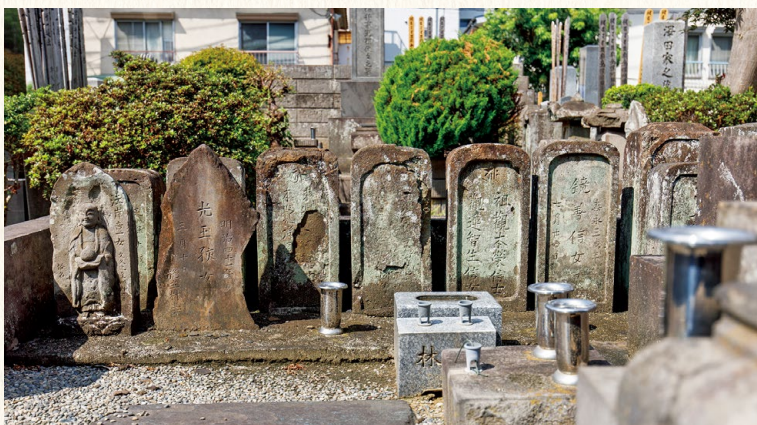
約千年以上続く競馬式。烏帽子に直垂姿の騎手が旧甲州街道を往復する



木陰にある本宿一里塚跡。旅人はここで里程を知って休息し、旅を続けた



石造りの常夜灯。当時の街灯にあたる。竿には火伏せの神「秋葉大権現」の文字



飯盛女と水子の墓。称名寺境内の墓地にひっそりと並んでいる



現存する高札場は全国的にも珍しい。元は街道に並行して建っていた



問屋場跡。万延2年建築の蔵は府中宿の大火後に防火建築として再建された



繰り返される荒川の水害

今回ご紹介する土木遺産は、埼玉県さいたま市桜区にある千貫樋^{せんがんび}です。樋とは樋門、樋管の別称であり、川と川をつなぐ水利施設です。千貫樋は、鴨川の荒川合流地先の左岸堤に設けられた樋管で、荒川の増水時に逆流を防ぐ施設です。同樋は古い歴史をもち、文政9(1826)年に完成した『新編武蔵風土記稿』には「銭千貫文で樋管を築造したが、完成しなかったので千貫樋の地名を残した」とあります。

千貫樋のある旧北足立郡大久保村大字五関周辺は、古くから頻繁に水害に襲われる地区でした。『浦和市史調査報告書第五集』によると同地区は、「かわずのしょんべんでも水が出る」と言われるほどの洪水常習地域でした。そのため米が採れず、機織りで稼いだお金で南京米を買って食べたとも記されています。大水が出ると屋敷は一週間、田畑はおよそ半月も水が引かないことも。荒川の氾濫を防ぐことは地区にとって大きな課題であり、明治期には毎年のように堤防工事が行われていました。

珍しい2連アーチ型煉瓦造樋管

そうした状況を克服するため、明治37(1904)年に鴨川落悪水路普通水利組合が、鴨川が荒川に流れ込む地点に樋管を建設しました。これが今も残る千貫樋です。千貫樋は2連アーチ型の煉瓦造樋管で、樋表(荒川側)の面壁は長さ6.1メートル、高さ2.0メートルほど。現在は樋表に向かって左側の管路は水路に、右側は遊歩道になっています。木造の門扉は取り払われて現存していませんが、元はマイターゲート式(観音開き型)の構造で、水圧により自動的に開閉しました。門扉こそ現存していませんが、戸当たりと軸受の金具が残されています。

千貫樋には15万3千個という大量の煉瓦が使用されました。水路内の壁面も煉瓦で覆われています。アーチリングは4巻き。面壁はイギリス積みです。埼玉県内には明治・大正期に建設された煉瓦造りの樋管が、五ヶ門樋^{こかもんび}(春日部市)など多く残っています。そのうち頂部がアーチ状の樋管は20箇所あり、そのうち2連管路は2箇所。その一つが千貫樋なのです。

千貫樋の樋表側。
現在、流水は鴨川に流下している



関東の土木遺産 第40回

2連アーチ型の煉瓦造樋管

千貫樋

埼玉県

土木学会では現存する貴重な土木構造物を調査し、「日本の近代土木遺産」として発表しています。



それらの土木遺産の中でも特に価値があるとされる選奨土木遺産。第40回は埼玉県さいたま市にある千貫樋です。

千貫樋水郷公園。水路は千貫樋を経て鴨川に続いている



千貫樋は平成30(2018)年に選奨土木遺産に認定されました。土木学会はその理由を「2連のアーチ型煉瓦造樋管で県内に現存する同型施設は希少であり、当時の技術と工法を示す貴重なもの」としています。

荒川改修工事により役割を終える

小林寿朗さん(前選奨土木遺産関東支部選考委員)は千貫樋について次のように評価します。

「樋管の多くは安く造ることのできる1連のものです。ただし、川幅のある場所に1連で造ると扉が水圧に耐えられませんか、春日部市の倉松落^{くらまつおとしおおくちさかよけ}大口逆除のように4連として、4枚扉の樋管もあります。千貫樋のような2連の樋管は埼玉県内でも珍しいものです。また、千貫樋は上部を県道さいたま鴻巣線が通り、水路の片側は遊歩道になっていますが、ひび割れなどもなく、とてもよい状態で保存されています」

完成した千貫樋ですが、荒れ狂う荒川を制御するには

力不足でした。明治43(1910)年8月10日には大水害が起きます。関東学院大学非常勤講師の関口吉男さんはこのときの大水害と千貫樋についてこう語ります。

「この洪水について書かれた資料によれば、松本新田の辺りで荒川の堤防が3箇所決壊しています。荒川が破堤したことによって大久保地区は水浸しとなり農作物は全滅でした。千貫樋は完成していましたが、樋管だけでどうにかなる状況ではなかったのです」

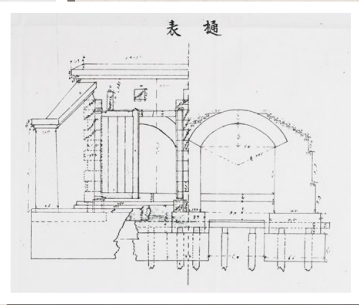
この大洪水を機に大正7(1918)年から荒川上流部改修工事が開始されます。荒川本堤は西側に新設、鴨川は南に約4.2kmの新水路が開削され、それぞれが旧堤・旧川となりました。そして大正9(1920)年には千貫樋はその役割を終えたのでした。

しかし2連の樋管はその後も残り、往時の水害との闘いを偲ばせてくれています。昭和62(1987)年には千貫樋水郷公園が整備され、千貫樋は公園のシンボルとして今も多くの人に親しまれています。



埼玉県立文書館には千貫樋に関する資料が残されている

千貫樋附近平面図
(埼玉県立文書館資料
「埼玉県行政文書 明2495-13」)



樋表設計図面
(埼玉県立文書館資料
「埼玉県行政文書 明2503-5」)



荒川の様子。写真中央奥辺りに
さくらそう水門が位置している

現在、鴨川が荒川に流れ込む
ポイントには、昭和の水門とさくら
そう水門がある

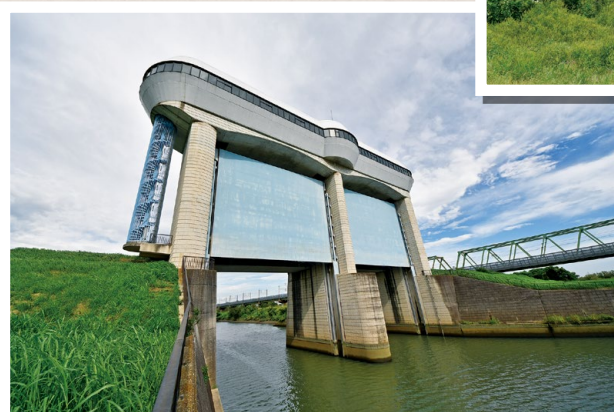
昭和の水門
(荒川左岸の鴨川合流部)



さくらそう水門

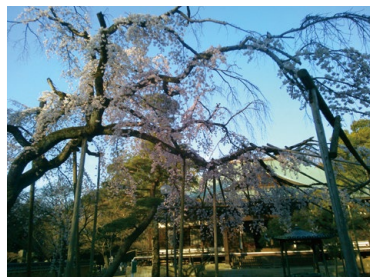


樋裏側。
樋表とはまた違った表情が見える





このページは
会員の皆さまの
投稿によるページです



松戸の名刹・東漸寺のしだれ桜

お寺での朝のお勤め

私は週末の朝、近くのお寺に「朝のお勤め」に行く。北小金駅近くの古刹で住職やお坊さんとお経を唱えるのだ。

朝、7時からお勤めは始まる。参道はうつそうとした木々に囲まれ、春は桜、秋は紅葉が美しい。広い本堂で30分、観音堂で10分ほどの合唱である。また、住職の明瞭な法話を聞き日常とは異なる空間・時間を体感する。

国交省を退職してから習慣にしており、6年目になる。15人程度のなじみの人たちで読経する。宗教的な興味というよりは、仏教文化に対する好奇心、体験として続けている。

お経はサンスクリット語を漢文に訳したものであるが、これを音読みする。意味を理解すると暗唱しやすくなる。ただひたすら読経することで身体的に高揚感を感じる。“無の境地”からは遠いが、一心に読経することで身につく感性や精神の安定はあると感じている。

清々しい気持ちで散歩がてら帰宅。その後の朝食が格別にうまい。

私はお勤めに行くようになってから、仏教に関する本を大分読んだが、禅宗系、密教系の違いもよく理解できていない。特定の宗派に興味はないが、これまでの価値観と異なる考え方や何か得体の知れない世界が、ありそうである。仏教的な「空」の思考と無意識的身体動作の融合ができれば、ゴルフのアプローチミスやパットの緊張を減らせるのではないかと思ったり

する。こんな打算的なことを思う私は、まだ悟りを開けぬ凡夫だ。

お勤めの仲間は異業種の集まりで、年に数回ほど懇親会を開催する。音楽家が生演奏し、詩吟や俳句を披露する人もいる。住職やお坊さんも参加してワイワイ飲む。また、住職主催のゴルフコンペもある。これには檀家さんから地域の名士? (海老原清治シニアプロ、演歌歌手、市議会議員等) まで参加し15組ほどの大コンペだ。お寺も時代に合わせて進化している。お寺でのコンサートや仏教講座もあり、お手伝いで下足番をやったりする。お寺は成仏してからお世話になるより、生きているうちに仲良くなった方がよさそうだ。

家庭菜園

お勤め後に朝食をとる。ゆっくりしてから畑で農作業だ。

自宅から徒歩で約10分の新松戸駅前の市民農園を60㎡ほど借りて、15年ぐらい前から四季折々に野菜を育てている。

8月の畑では、トマト、ナス、キュウリ、ゴーヤ、つるむらさき、ねぎ、モロヘイヤ、冬瓜、オクラ、落花生などを作っている。農作業は体を使って生産物が得られる。普段の仕事はデスクワークで、自分の成果を実感できないことが多いが、畑は成果が明確である。体を動かし汗をかくことで、収穫時はもちろんだが、草むしり後のきれいになった畑を見ると、極上の達成感を得られる。農家の次男坊のDNAを感じているのだろうか。

特に早朝に収穫した野菜はうまい。無農薬なので、虫が多い時期の野菜は見てくれは悪いが味は悪くないし、採りたて野菜の甘みを感じることができる。食卓は確実に彩り豊かになる。採れ過ぎた野菜は、漬物にしたり乾燥したりして保存する。自家

私の週末



其田 誠

世紀東急工業(株) 関東支店 部長
元関東地方整備局企画部防災対策技術分析官



お勤めの仲間との交流も楽しい

製沢庵や高菜漬け、切り干し大根、かんぴょうなども作っている。調理も含めてカミさんの協力が欠かせない(子育てが終わり、夫婦二人だけの生活、カミさんとは仲良くすることが必須だ……)。

縁があって、当協会退職後も会社勤務をしているが、週末が楽しみである。ゴルフも月2回程度はプレーし、お勤め、畑と、とにかく体を動かし、夜はしっかり飲んで、早く寝る。年のせいか酒量は減ったが、日本酒やワインを飲むのは至福の時間だ。身体能力、記憶力ともに衰えは激しいが、脳みそも含めて刺激を与え、もう少し健康な年月を過ごしていきたいと思っている。

8月のある日の収穫物。ゴーヤ、つるむらさき、トマト、キュウリ、モロヘイヤ、シシトウ、オクラ、シソなどたくさん!



家庭菜園で汗を流す

会 員 情 報

新会員をご紹介します 新しく5名の方が入会されました。これからよろしくお願いいたします。

令和2年8月～
50音順・敬称略

氏名	現勤務先
石川 喜則	自宅
稲野 茂	前田製管(株)
加邊 良徳	(一財)全国建設研修センター

氏名	現勤務先
酒井 洋一	
山下 勝	シバタ工業(株)

お悔やみ申し上げます 謹んで哀悼の意を表します。

氏名	逝去年月	建設省(現国土交通省)退職時職名
長田 庄二	令和2年5月	道路部 道路管理課長
中木原政志	令和2年5月	関東技術 建設専門官
渡邊 三男	令和2年8月	企画部 工事品質調整官

氏名	逝去年月	建設省(現国土交通省)退職時職名
松本 蔵司	令和2年8月	江戸川 庶務課長
板橋 彪	令和2年8月	総務部 財産管理官
田中 源六	令和2年10月	武蔵森林公園 管理所長

編集委員会だより

2020年10月

今 年の夏は梅雨明けが遅くなり、7月の降雨量は各地でこれまでの記録を上回ったところが多かったそうです。

関東ではこれまでに大雨による大きな災害はありませんが、一転、8月は連日の暑さにより気温が上昇。猛暑日・熱帯夜の日は続き、体に応えました。加えて、高温・多湿の中、新型コロナウイルス対策でマスクの着用を余儀なくされ、熱中症になる方も多かったようです。

テレビや新聞では連日、新型コロナウイルスに感染した方、亡くなった方の数の発表がありました。すでに第2波のピークは過ぎたとの見方をする専門家もいますが、引き続き注意しなければなりません。ワクチンの開発は急務であり、少しでも早く沈静化することを願ってやみません。

このような状況の中で、今までコロナ禍のような不自由を経験することなく生活してこられたことに感謝するとともに、これからは、新型コロナウイルスとともに生きていくための知恵や新しい生活様式を皆で考え、実践していくことが必要だと思います。

そして、アフターコロナでは、会員の皆さまをはじめ、多くの方々と元気に笑顔でお会いできる日を楽しみにしています。健康に注意して毎日を過ごしたいと思っています。皆さまには、くれぐれもご自愛くださいませ。

(編集委員 S・S)

編集委員

● [関東地域づくり協会]

澤田晋
堤盛良
中村一夫
野橋明彦
前田隆徳

[会員]

望月美知秋 ((株) 日水コン)
田中良彰 (大成建設 (株))

公益事業紹介 荒川図画コンクール

今年で31回目を迎える荒川絵画コンクール。河川愛護に関する広報活動の一環として、次世代を担う小学生に荒川の絵を描くことにより河川美化・愛護の意識や関心を高めていただくとともに、その作品を通して、多くの流域住民の方に河川愛護や河川への意識を啓発することを目的に実施されています。

平成17年から当協会（当時：関東建設弘済会）の公益助成事業となり、平成30年からは当協会も実行委員会へ加わり「関東地域づくり協会賞」も設けられました。

今回は、7月1日～9月15日の応募期間に、総数1,524点の応募があり、9月25日に開かれた審査会にて、特選および当協会を含む実行委員会11団体の各賞がそれぞれ各学年1点、入選各学年3点、佳作各学年5点の合計120点の入賞作品が決定しました。



審査会の様子

ました。

入賞作品は、埼玉県立川の博物館、戸田市役所等で展示される予定です。

今回「関東地域づくり協会賞」に選ばれた6作品を紹介します。

展示予定

会場等	期日
さいたま市市民活動サポートセンター	11月21日(土)～24日(火)
埼玉県立 川の博物館	12月12日(土)～27日(日)
坂戸市文化会館「ふれあ」	1月 4日(月)～10日(日)
戸田市役所	未定



【荒川の夕やけ】
小川町立八和田小学校4年
岡部香絵さん



【長とろのライン下り】
秩父市立大田小学校5年 宮原爽月さん



【川あそび】
西武学園文理小学校1年 戸張睦斗さん



【日本一の水管橋とコスモス畑】
鴻巣市立大芦小学校2年 下野若菜さん



【中津川の滝で遊んだよ】
秩父市立影森小学校3年 田口心菜さん



【舟運と菜の花】
川越市立高階北小学校6年 田口幸歩さん